

4. 新聞等に掲載された研究

解剖学第一

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
秋野公造・講師	下垂体 PTTG 遺伝子の肝再生における新機能の発見	島原新聞	2002. 7. 11	
秋野公造・講師	下垂体 PTTG 遺伝子の肝再生における新機能の発見	長崎文化放送 スーパー J チャンネル	2002. 7. 11	

生理学第二

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
篠原一之・教授	女性の睡眠障害（月経前緊張症との関連）と新たな薬物治療	九州医事新報	2002年 6月20日	「月経前緊張症（PMS）」のある一群には体内時計異常に異常が生じていることを明らかにした。健康女性では、入眠時刻や直腸温の最低時刻は、毎日、ほぼ同じ時刻に現れる。ところが、PMS を示す女性の中には月経周期に伴って睡眠・覚醒リズムの位相が変化する症例が存在した。即ち、血中プロジェステロンの高い黄体期には徐々に入眠時刻が遅れるため不眠となり、血中エストロジェンの高い卵胞期には徐々に入眠時刻が早まり、不眠が改善する。これまで、本症例のように、交代性に位相の前進と後退を繰り返す疾患は報告されていなかったもので、私達はこの疾患を交代性位相変位症候群と名付けた。
篠原一之・教授	女性のメンタルヘルス	西日本新聞	2002年 11月23日	近代医学は、「器質的な病態異常で説明できない」自覚症状に対しては、不定愁訴として我慢を強いてきた。しかし、女性特有の不定愁訴の多くは（月経前緊張症（黄体後期）、マタニティーブルー（出産後2週間）、更年期（閉経前後10年間）、プロジェステロンの低下が脳へ悪影響を及ぼすことによって起こる。そこで、篠原教授は、ホルモンの変動を考慮した女性のストレス・睡眠外来を総合診療科で行っている。

病理学第一

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
山座治義・助手	老化の新たな指標に	Medical Tribune	2002. 6. 13	第25回日本基礎老化学会において、加齢指標蛋白質 SMP30が寿命延長効果のあるカロリー制限により、加齢に伴う発現の減少を抑制し加齢のバイオマーカーになりうることを報告した。
下川 功・教授	食事と寿命	産経新聞	2002. 7. 22	現在、動物の寿命を確実に延ばす唯一の方法であるカロリー制限についての概説と、そのメカニズムを解明することによる健康寿命の延長に繋がる薬剤の開発の可能性について解説した。

感染分子

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
片峰 茂・教授	ヤコブ病新薬開発	西日本新聞	H14.10. 8	プリオン病の治療薬をペントサンをもとに開発
片峰 茂・教授	ヤコブ病新薬開発	長崎新聞	H14. 8. 30	プリオン病の治療薬をペントサンをもとに開発
片峰 茂・教授	ヤコブ病新薬開発	読売新聞	H14. 8. 30	プリオン病の治療薬をペントサンをもとに開発
片峰 茂・教授	ヤコブ病新薬開発	Japan Times	H14. 9. 12	プリオン病の治療薬をペントサンをもとに開発

内科学第一

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
江口勝美・教授	自己免疫疾患の研究を基礎として先進的医療を目指す	九州医学社雑誌	2002. 7. 20	第一内科の研究内容を社会に公表
調 漸・助教授	頭痛で悩んでいませんか？	長 崎 新 聞	2002. 5. 23	頭痛に関する疑問や質問に答え市民の頭痛に対する啓蒙を行なう
	ヤコブ病新薬開発へ	長 崎 新 聞	2002. 8. 30	ヤコブ病の治療法を3カ年での完成めざすプロジェクトが長崎大学で着手された。
	ヤコブ病新薬開発へ	読 売 新 聞	2002. 8. 29	ヤコブ病の治療法を3カ年での完成めざすプロジェクトが長崎大学で着手された。
	Researchers hope to use bladder drug to treat CJD	Japan Times	2002. 9. 12	長崎大学がヤコブ病研究グループを形成し治療法開発の研究を推進している。
	ヤコブ病の治療開発	山 形 新 聞	2002. 9. 6	長大、3年計画で高度先進医療としてヤコブ病治療法開発を推進。
	ヤコブ病新薬開発へ	西日本新聞	2002. 10. 8	長大医学部3カ年計画発症予防に道筋を付ける研究として注目されている。
	ヤコブ病新薬開発へ	読売新聞夕刊	2002. 10. 12	3年で文科省が2億6千万円を投入し長崎大学で治療法開発の研究に着手した。
	ヤコブ病の治療開発へ	神 戸 新 聞	2002. 9. 6	ヤコブ病治療で新薬の開発と並行して臨床試験を開始した。
川崎英二・代謝疾患治療部・医員	1型糖尿病の発症予防	D I T N	2002. 8. 15	1型糖尿病の発症予防に関する慶應義塾大学医学部内科中央臨床検査部 武井 泉先生との対談
山崎浩則・助手	糖尿病を知るということ	島 原 新 聞	2002. 8. 9	講演会について

内科学第二

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
河野 茂・教授	インフルエンザ・肺炎呼吸器感染症の正しい知識と予防	朝 日 新 聞	02. 1. 30	インフルエンザや肺炎などの呼吸器感染症に関して、病態、予防法ならびに治療について解説といった新しい問題が登場していた。また、日常生活における留意点についてもわかりやすく解説した。

内科学第三

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
矢野捷介・教授	不整脈はどのようにして起きるのか	読売新聞	2002.3.5	不整脈は多種多彩で、脈拍の不整をとともなうもの、不整はなく極端に脈拍の速いもの、遅いものなどがあり、その臨床的意義も多彩である。不整脈の種類とそれぞれの不整脈の発生機序について解説した。

小児科学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
森内浩幸	21世紀 これからの小児科医療について	西日本新聞	2002.10.5	

整形外科

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
松本智子・助教授	骨粗鬆症	長崎新聞健康欄	平成14年9月2日	骨と関節の日にちなんで、骨粗鬆症の病態について解説。
松本智子・助教授	骨粗鬆症	NCCテレビ放送テレビ健康塾	平成14年10月15日	骨粗鬆症の予防について解説。
榎本 寛・助手	変形性関節症について	NHK総合テレビがまだせ5“健美塾”	平成14年10月7日	変形性関節症の成因と治療法について解説。
榎本 寛・助手	大腿骨頸部骨折について	テレビ放送NCC テレビ健康塾	平成14年10月26日	大腿骨頸部骨折の発症原因とその治療法について解説。

皮膚科学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
片山一朗・教授	アトピー性皮膚炎	KBCラジオ「アレルギー談話室」	2002/11/10	アトピー性皮膚炎の症状や治療法について解説した
廣瀬寮二・助教授	皮膚がん	長崎新聞「健康」	2002/11/4	紫外線の関係する皮膚癌やメラノーマの症状について解説し、啓蒙した
廣瀬寮二・助教授	第18回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会より シンポジウム「日光角化症」	ラジオたんぱ「マルホ皮膚科セミナー」	2002/11/2	学会シンポジウム「日光角化症」での発表について解説

泌尿器科学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
野俣浩一郎・講師	泌尿器科領域におけるギャップ結合細胞間コミュニケーション	九州医事新報	2002. 8. 20	

眼科学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
雨宮次生・教授	電子顕微鏡、分析電子顕微鏡、イオン顕微鏡の臨床材料への応用	長崎大学学報	平成14年 11月1日	左記研究により、永年にわたり日本臨床電子顕微鏡学会に多大なる貢献をした功を表し、平成14年度学会賞「安澄記念賞」を授与された
松尾陽子・実験助手	薬物投与が脈絡膜新生血管の発生に与える影響	長崎大学学報	平成14年 11月1日	左記研究により、臨床電子顕微鏡研究の発展に貢献した功を表し、第34回日本臨床電子顕微鏡学会会長賞を贈呈された
雨宮次生・教授	角膜移植術成績向上のための臨床的研究	長崎大学学報	平成14年 11月1日	長崎県下のアイバンク活動に尽力し、角膜移植医療普及に貢献した功績が高く評価され、第4回臓器移植推進全国大会において労働大臣感謝状を贈呈された

放射線医学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
伊東昌子・講師	シンクロトロンCTを用いた骨質評価	メディカルトリビューン	2001. 9. 1	骨強度に関与している骨質を評価する方法を紹介

形成外科学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
秋田定伯・助手	創傷治癒	創傷治癒センター (web site)	2002年5月、 アメリカ創傷治癒学会・ヨーロッパ創傷治癒学会にて座長	創傷治癒に関する日本最大のweb site、長崎新聞 丸山寛之の医療コラムにて賞賛される

公衆衛生学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
草野洋介・助手	性感染症とエイズ	KTN テレビ 長崎みゅーで	2002. 2. 28	近年若者の性行動の活発化が顕著で、それに伴い、性感染症特にクラミジア感染症の感染率が上昇している。また、HIV/エイズ感染者が我が国で着実に増加していることを解説、その疫学、予防法、治療法について解説した。

放射線応答解析研究分野（原研放射）

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
奥村 寛・教授	原爆放射線の測定	長崎新聞	2002. 5. 16	講義「原爆医学概論」の紹介
奥村 寛・教授	原爆放射線の影響	長崎新聞 朝日新聞 毎日新聞 読売新聞 中国新聞 西日本新聞	2002. 6. 30	原爆放射線影響の長崎平和宣言への表現
奥村 寛・教授	原爆放射線の影響	長崎新聞	2002. 7. 14	原爆放射線影響の長崎平和宣言への表現
奥村 寛・教授	放射線の測定・性質・影響	長崎新聞 読売新聞	2002. 8. 5	公開セミナーにおいて対談「放射線といのち」

変異遺伝子解析研究分野（原研遺伝）

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
新川詔夫・教授	耳垢遺伝子の局在	朝日新聞	6月11日	耳垢遺伝子の局在
新川詔夫・教授	ソトス症候群の遺伝子発見	長崎新聞	3月21日	ソトス症候群の責任遺伝子発見
新川詔夫・教授	ソトス症候群の遺伝子発見	朝日新聞	4月2日	ソトス症候群の責任遺伝子発見
新川詔夫・教授 松本直通・助教授	ソトス症候群の遺伝子発見	日本工業新聞	3月25日	ソトス症候群の責任遺伝子発見
新川詔夫・教授	ソトス症候群の遺伝子発見	毎日新聞	3月23日	ソトス症候群の責任遺伝子発見
新川詔夫・教授	ソトス症候群の遺伝子発見	読売新聞	3月23日	ソトス症候群の責任遺伝子発見
新川詔夫・教授	ソトス症候群の遺伝子発見	時事通信 ニュース速報	3月22日	ソトス症候群の責任遺伝子発見
新川詔夫・教授	ソトス症候群の遺伝子発見	NHKニュース 速報	3月22日	ソトス症候群の責任遺伝子発見
新川詔夫・教授	ソトス症候群の遺伝子発見	YAHOO! Japan	3月22日	ソトス症候群の責任遺伝子発見

分子診断研究分野（原研細胞）

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	山下、柴田両教授が「ロシア友好勲章」を受賞。	長崎大学学報	2002年 1月1日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	長崎大学はベラルーシ共和国の国立ゴメリ医科大学と学術交流協定を締結。	長崎新聞	2002年 2月16日	国際ヒバクシャ医療
	第4回永井隆平和記念・長崎賞がベラルーシのデミチュック・エブゲニイ氏と、鎌田七男氏に贈られた。	長崎新聞	2002年 2月19日	国際ヒバクシャ医療
	第4回永井隆平和記念・長崎賞がベラルーシのデミチュック・エブゲニイ氏と、鎌田七男氏に贈られた。	朝日新聞	2002年 2月19日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	長崎大学医学部は19日、旧ソ連で放射線医学研究に従事している研究者らを招きシンポジウムを開いた。	長崎新聞	2002年 2月20日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	セミパラチンスクと長崎を結ぶ医療支援	世界の動き2	2002年 4月1日	国際ヒバクシャ医療
	NASHIMは国際支援事業として医療分野での人材育成が遅れている旧ソ連の臨床医向けにロシア語版の医学書「小児甲状腺学」(500頁、1000部)を刊行。	長崎新聞	2002年 4月3日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	長崎大学における放射線医療科学	長崎新聞	2002年 4月20日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	Living in the Shadow Of Chernobyl	SCIENCE	2002年 4月20日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	カザフスタン共和国のセミパラチンスク旧ソ連核実験場周辺の汚染地区で暮らす被ばく者を対象としたがん検診が28日、現地にて開始された。	長崎新聞	2002年 5月29日	国際ヒバクシャ医療
	国際チェルノブイリ甲状腺組織遺伝子データバンク；小児甲状腺がん病理標本1400件、遺伝子抽出500件に	長崎新聞	2002年 6月29日	国際ヒバクシャ医療

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
大津留晶・助手 山下俊一・教授	長崎大学の研究グループは、副作用の少ないがんの遺伝子治療法を開発した。	日経産業新聞	2002年 7月12日	遺伝子治療
Sagadat Sagandykova	The development of project in public health and environment protection in the region of Semipalatinsk. The participation of Japanese doctors and other experts in this project.	Semipalatinsk News	2002年 7月26日	国際ヒバクシャ医療
	NASHIM は創立10周年記念永井博士に関する特別講演会と放射線についての理解を深める公開セミナーを4日長崎原爆資料館で開く。	長崎新聞	2002年 8月1日	国際ヒバクシャ医療
	4日午後1時半より原爆資料館ホールにてNASHIM 創立10周年記念特別講演会と公開セミナーが開催された。	読売新聞	2002年 8月2日	国際ヒバクシャ医療
ウラジミール・パーシン 山下俊一・教授	旧ソ連の小児被ばく者治療支援のテキスト「甲状腺がんの超音波診断-チェルノブイリの経験から」出版。	読売新聞	2002年 8月7日	国際ヒバクシャ医療
ウラジミール・パーシン	長崎大学医学部とNASHIM の協力で、ロシア人医師が甲状腺がん臨床のロシア語版の専門書を出版。	朝日新聞	2002年 8月8日	国際ヒバクシャ医療
スベトラーナ・アニスチェンコ	ベラルーシ医科大学の助教授スベトラーナ・アニスチェンコさん、長崎大学医学部で研修。	読売新聞	2002年 8月9日	国際ヒバクシャ医療
浜田亜衣子	カザフスタン共和国で巡回がん検診立ち上げに奔走した長崎大学医学部大学院2年生	朝日新聞	2002年 9月3日	国際ヒバクシャ医療
	文科省「COE」に長崎大学の研究教育組織「放射線医療科学国際コンソーシアム」が選ばれた。	長崎新聞	2002年 10月3日	放射線医療科学
	文科省「COE」審査結果発表	西日本新聞	2002年 10月3日	放射線医療科学
	文部科学省の「21世紀COE(卓越した拠点)プログラム」の選定結果公表。	毎日新聞	2002年 10月3日	放射線医療科学

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
	21世紀 COE プログラム 決定 トップ30に決まった113件	朝日新聞	2002年 10月3日	放射線医療科学
	長崎大学が被爆地として 研究、実績を積み上げて きた「放射線医療科学」 が「トップ30」に選ばれ た。	朝日新聞	2002年 10月4日	放射線医療科学
イリナ・パロナ	長崎大学の留学生ら、日 本の食文化を学ぶ	長崎新聞	2002年 11月19日	異文化交流

○「研究内容の概要と社会との関連」

国際ヒバクシャ医療協力活動の成果を原爆被爆者医療へ還元し、同時に長崎の被爆医療のノウハウを世界へ発信し、海外からの研修生の受け入れ指導と公開セミナー開催など市民の目の高さでの医学の推進、啓蒙に尽力している。

国際放射線保健部門（原研国際）

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
山下俊一・教授	山下、柴田両教授が「ロシア友好勲章」を受賞。	長崎大学学報	2002年 1月1日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	長崎大学はベラルーシ共和国の国立ゴメリ医科大学と学術交流協定を締結。	長崎新聞	2002年 2月16日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	長崎大学医学部は19日、旧ソ連で放射線医学研究に従事している研究者らを招きシンポジウムを開いた。	長崎新聞	2002年 2月20日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	セミパラチンスクと長崎を結ぶ医療支援	世界の動き2	2002年 4月1日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	長崎大学における放射線医療科学	長崎新聞	2002年 4月20日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	Living in the Shadow of Chernobyl	SCIENCE	2002年 4月20日	国際ヒバクシャ医療
山下俊一・教授	カザフスタン共和国のセミパラチンスク旧ソ連核実験場周辺の汚染地区で暮らす被ばく者を対象としたがん検診が28日、現地にて開始された。	長崎新聞	2002年 5月29日	国際ヒバクシャ医療

○「研究内容の概要と社会との関連」

国際ヒバクシャ医療協力活動の成果を原爆被爆者医療へ還元し、同時に長崎の被爆医療のノウハウを世界へ発信し、海外からの研修生の受け入れ指導と公開セミナー開催など市民の目の高さでの医学の推進、啓蒙に尽力している。

理学療法部

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
原田真一、助手	骨粗鬆症の予防	長崎新聞	2002年 9月16日	骨粗鬆症と予防法